

平成29年度関東・東海地域水稲除草剤試験中間現地検討会報告

日本植物調節剤研究協会 関東支部

平成29年度の関東・東海地域水稲除草剤試験中間現地検討会が、7月4～5日に静岡県で開催され農薬会社関係33名を含む82名が参加した。

1日目はJR掛川駅に集合後、2台のバスに分乗して磐田市にある静岡県農林技術研究所三ヶ野ほ場に向かった。三ヶ野ほ場では主催者の東海支部横山支部長と静岡県農林研究所研究総括監の挨拶があり、その後場内で実施している水稲除草剤適2試験ほ場を視察調査した。前日まで34℃の猛暑なので、汗だくを覚悟していたが、当日は曇天で時より風もあって、良く管理された試験ほ場をじっくり観察調査することができた(写真-1)。

その後浜松市に向かい、酒造メーカーの花の舞酒造(株)の工場を視察した。その頃になると雨が降り出してきたので、工場等の外回りは早めに切り上げ、室内に移動して、名誉杜氏の土田一仁氏および静岡山田錦研究会前会長の鈴木良紀氏から地域特産品酒生産の取り組みについて説明を受けた。花の舞で使用している酒造好適米は全てが県内で契約栽培されたものであり、静岡山田錦研究会では育苗や圃場の栽培などの各段階の栽培から杜氏と生産者がコミュニケーションを重ね、上質な酒造好適米の生産に取り組んでいた。

浜松市のホテル到着後には情報交換会が開催さ

れた。海の幸を味わいながら、試験の状況や水稲除草剤の現状課題について、さらには日頃の苦労話など遅くまで熱心に情報交換が行われた。また、次年度の開催県である長野県の方からご挨拶があった。

2日目の検討会は、東海支部長の総合司会のもと、水稲除草剤適2試験中間成績の検討は中央農業研究センターの内野彰専門員の司会で行われ、各試験地からは概ね順調に試験を実施しているとの報告があった。

特別課題の検討では、静岡県農林技術研究所作物科の宮田祐二氏から「静岡県におけるネズミギの被害と防除法の開発について」と題して、話題提供があった。静岡県の水田畦畔や水田転換コムギ畑で問題になっているネズミギの農業被害の実態および各種除草剤のネズミギ防除効果などの説明があった。特に、畦畔管理と斑点米カメムシ被害の関係および薬剤抵抗性ネズミギの話は、興味深いものであった。

今回の静岡県開催の検討会では、地元こだわりの上質酒米生産の現状を知ることができ、また関東地域でも問題となっているネズミギについて色々学ぶことができ、大変有意義であった。この会を企画された東海支部長と担当された静岡県の方々に感謝とお礼を申し上げたいと思います。



写真-1 適2試験圃場視察の様子(静岡県農林技術研究所三ヶ野ほ場)



写真-2 水稲除草剤適2試験成績検討会場(浜松市)